

文書館通信

22号

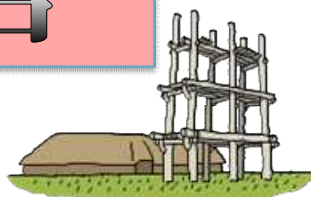
東御市文書館
令和6年
2月 発行



☎ 文書館直通 0268-67-3312

東御市教育委員会文化財係直通 0268-75-2717

📧 メールアドレス bunshokan@city.tomi.nagano.jp



昭和8年(1933)の2月28日に、旧滋野村の成立遺跡が国史跡に指定されました。それにちなんで、今月は東御市文書館に展示されている、埋蔵文化財に関する資料をご紹介します。

【山越（やまこし）遺跡】（1994発掘調査 発掘調査報告書未刊行）



確かに、この土器が、壺の蓋であることがわかる、出土状況です。

ほぼ完全な形で、土器が残っており、正位（口縁部を上にした位置）で埋設されていました。

蓋付壺形縄文土器（縄文後期）出土状況写真（東御市教育委員会所蔵）



東御市文書館・文化財展示室に展示中

東御湯の丸インターチェンジ附近の「山越遺跡」より出土した、縄文後期（こうき）の蓋（ふた）付き壺形（つぼがた）土器です。

当館にて蓋を被せた状態で展示中ですが、出土した時から蓋が被せられていたことが確認できる、大変貴重な資料です。

残念ながら発掘当時の記録はこの写真のみですが、とても特徴的な土器であることが見てとれます。一部に赤く採色された部分と黒い漆のような部分が残っています。

ぜひ、文化財展示室に、実物を観にお出かけください。

【久保田（くぼた）・宮の反（みやのそり）・善福寺（ぜんぷくじ）遺跡】 平成6年(1994)発掘調査



久保田・宮の反・善福寺遺跡全景 (東御市 加沢地籍南)

平成6年(1994)に、団体営ほ場整備事業瀬下地区の実施に先だつ発掘調査が行われました。善福寺跡の部分は、残念ながら工事中に見つかったため詳細は不明です。発見された3つの壺の中いっばいに焼骨が詰まっていた。

1.灰釉陶器
(かいゆうとき)
四耳壺
(しじこ)



2.常滑焼
(とこなめやき)
壺



3.常滑焼
(とこなめやき)
壺



経文の書かれた焼骨
(南無阿弥陀仏)



(文書館にて展示中)

写真3の常滑壺に入っていた焼骨の中には経文が書かれた骨片がありました。壺の製作時期は中世の後半と推定され、室町時代の頃の蔵骨器と考えられます。骨に経文が書かれている事例は非常に珍しく、梵字が書かれた骨片もありますので、ぜひ文書館で実物をご覧になって下さい。